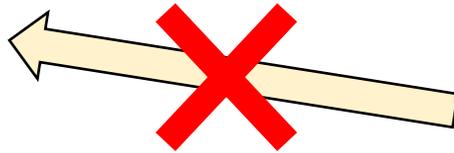




令和7年度テーマ

## 孤独・孤立

テーマ選定の背景



- ・相談につながらない人ほど支援の網からこぼれやすい
- ・既存の相談窓口は相談に「来る人／来られる人」には対応できるが、相談に「来ない人／来られない人」には対応が難しい



孤独・孤立は状態



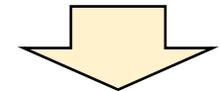
こども

高齢

困窮

障害

孤独・孤立の状態に至る背景に、複雑に絡み合った課題が隠れている



担当者(課)が曖昧になりやすい

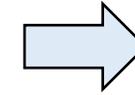
孤独・孤立の状態にある方への支援は縦割りの影響が最も表れやすい領域の一つ



担当者会議  
第2回, 第3回

会議開催の狙い:

会議出席者の意識が変化したかどうか



変化した

【具体的な議論】

- ・支援につながっている世帯／支援が必要と見込まれる世帯には、孤独・孤立状態に陥っている世帯が複数ある。
- ・支援を進める前段として“関係性の構築”が必要な世帯が増加している。
- ・誰にでも起こり得る状態であるため、社会的処方により「誰でも活躍できる」「誰でも主人公になれる」という気付きが重要

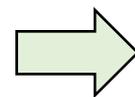
担当者会議  
第4回（最終回）

会議開催の狙い:

行動の変化を起こすために考えよう

【具体的な議論】

- ・行動を起こすために阻害要因となっているものに何があるだろうか。  
例えば、
  - ・支援の分野ごとに必ずしもルールが同じではない
  - ・職員が支援に係る十分な知識や地域資源を有していない



これらをまとめ、令和8年度かしまるプロジェクト実行計画に落とし込んでいく